

いよいよ開幕。出番です！

長い冬もようやく終わりを告げ、春の訪れが感じられます。いよいよ札幌を拠点とする二つのプロスポーツ、サッカーと野球のシーズン到来です。今月の表紙は、プロ野球の開幕を待ちわびていた、北海道日本ハムファイターズの応援団「ファイターズ通り応援団」の皆さんです。



地元にできた初めてのプロ野球球団への期待は、既に最高潮です。新庄剛志選手がファイターズに入団。地域での盛り上がりは加速し、現在は、総勢、約二百五十人の団員を数

えます。

同商店街で小売店を営む、団長の加賀谷熙さん(五)は「プロ野球観戦は子どもからお年寄りまで、みんなが楽しめます。ファイターズがきっかけで、地域での交流が生まれ、みんなが元気になれば」と語ります。商店街関係者はもちろんのこと、中学生、高校生、一人暮らしのお年寄りなど、幅広い世代の人たちが入団を申し込んでくるそうです。

この応援団のモットーは「団員それぞれが、自分にできる範囲で、応援すること」です。応援団では、球場に連れ立って応援に行くほか、そろいの法被を作ったりもしています。しかし、球場では、そろって一斉に応援しなければならぬわけではなく、みんな思い思いに、気軽に観戦を楽しんでいます。

◆ ◆ ◆  
団員の人たちは「今まで、プロ野球は、テレビでジャイアンツ戦を見るだけで、札幌ドームに来ることも無かった。でも、これからは、ファイターズ第一だね」と話します。プロ球団の出現をきっかけとした、スポーツによるまちづくりが始まっています。

「ひがくすとーリー」は今月号で終了いたします。ご愛読ありがとうございました。

ひがくすとーリー

第35回

トルストイからの手紙

明治の終わりのころ、札幌村に生まれ育った村木キヨという女性が、ロシアの文豪トルストイにファンレターを出したところ、サイン入りの写真と代筆による手紙が届きました。キヨは、一八九〇(明治二十三年)年生まれで、トルストイ文学を愛読し、短歌の好きな文学少女だったといえます。

トルストイは、一九一〇(明治四十二年)年に没するまで、代表作「戦争と平和」「アンナ・カレーニナ」など数々の名作を残しています。ファンレターがロシアの地に届いたのは、トルストイが没する二年前の一九〇八(明治四十一年)のこと。世界の文豪として名高い彼も当時、療養の身でした。約二カ月後にキヨのもとに届いた返書には、次のように書かれています。

ロシアから届いた贈り物

に住む人と精神的に結びつけたことを喜んでいる次第です。あなたが今後、ますます精神的に向上されるようにと願っている。と伝えてほしいとのこと。そして、ここにサイン入りの写真と同封しました。

代筆 V・チャルトコフ  
この年は、日露戦争が終わってから、わずか三年後。両国の関係が悪い中でファンレターを出した、キヨの強い意志と、トルストイ文学へ寄せる深い思いをうかがうことができません。

貴重なエピソードに包まれたこの手紙と写真は、一九七七(昭和五十二年)年に札幌村郷土記念館が完成したときに、母の形見として大事に持っていた息子さんの好意により寄贈され、現在も展示されています。



郷土記念館に展示されている写真と手紙など

◆札幌村郷土記念館◆  
北13東16  
☎782-2294  
【開館時間】  
10:00~16:00  
(15:30までに入場)  
【休館日】  
月曜、祝日の翌日、年末年始